

行仙宿・来宿者の対応と椎木・今野両氏の

奥駈行の支援他

この日も4時に玉置神社を出発し、14時30分到着予定も、この大雨のなか昼食もとらず又、ほとんど休息もせず、ひたすら歩かれたとの事である。

◇ 実施日：平成26年4月29日(火)大雨→30日(水)曇り後晴
◇ 参加者：沖崎吉信、川島 功、椎木 亮 計3名。

◇ 作業内容

- ・ 水場径の段差改修(10箇所)。
- ・ 薪置場への薪補充。
- ・ 今野・椎木両氏の弁当作り等の接待と来宿者5名の対応。
- ・ 下北山村役場訪問(40周年記念祝賀会招待状届ける)。

◇ 情報

池郷林道崩壊地、5月末完了の予定。

連休の第一陣を受賜った。天気予報は最悪で大雨予報。

当日久々役場ガレージへ飛び込み、雨具着用と背負子荷の雨対策を行う。

この大雨の中でもカナウナギトンネル近くでは、工事中で3日、4日、5日の三日間のみ休みとなる様である。

11時前頃小屋着。早速二人で水場へ降りる、採水地は水場というよりも滝と滝つぼの状態であった。

昼食と行者堂の清掃を終えた午後13時過ぎ、椎木・今野の両人が到着され、行者堂で勤行後水汲みに降りられた。

小屋内で着替えて濡れた装束の整理をされる。

両氏の計画書を拝見すると、連日3時起床・4時出発が基本で、

全体の計画では、最終目的は5月3日の大峯・山上ヶ岳での戸開式参加であり、広島市の椎木氏、宮城県岩沼市の今野氏と遠く離れたお二人が

第一日(4月25日) 昼過ぎ新宮で合流、神倉神社、千穂ヶ峯を経て速玉大社参拝。(新宮泊)

第二日 新宮市から那智大社・青岸渡寺へ(約20km徒歩)

第三日 那智山→大雲取・小雲取越え→本宮大社参拝

第四日 本宮→玉置神社

第五日 玉置神社→行仙宿

第六日 行仙宿→前鬼・小仲坊(椎木氏翌日下山帰途へ)

第七日 前鬼・小仲坊→弥山小屋

第八日 弥山小屋→山上ヶ岳(桜本坊)

第九日 山上ヶ岳・大峰戸開式→吉野山・金峯山寺

第十日 吉野山→75番目の靡・柳の宿→京都(泊)

第十一日 帰途へ

となっている。4月25日の新宮合流から5月5日の帰途迄の11日間の二人の大峰順峯奥駈行である。

今どき戸開式に参加の為、新宮から11日間かけて歩かれる行者は、両氏以外いないだろう。お二人の熱い気持ちに接した接待であった。

行者さんでも一般登山者でも大半が吉野から入峰し、本宮へ向かう逆峯が大半のなか、順峯での参加は玉岡相談役のアドバイス

がそうさせた様である。

14時頃一般登山者3人、夕方に2人計5人の来宿があった。その内の一人横浜市の永山君は、中学生まで新宮市で過ごしたとの話があつて、夜の部も大いに語り合った。

3時起床、4時出発の両氏の為、2時過ぎに起き、朝食の準備にかかり予定通り4時、雨のなか次の予定地前鬼へ向われた。

来宿の5人も6時前後には、今日の予定地玉置山に向われた。皆を送り出した後、7時前には雨が上がり薄日が漏れそうな天候に変わり、二人で水場径の段差改修(約10箇所)と薪置場への薪補充を行う。時間通行規制に間に合うように昼前に下山。

13時過ぎ下北山村役場へ寄り、藤岡産業建設課長より池郷林道の開通見込み・現状を聞くと共に村長さんに40周年記念祝賀会招待状をお渡し、参加依頼をお願いし帰途についた。

(沖崎 記)



ロケットストーブで暖と装束濡かす 永山君と偶然会い同行の3人